

年間活動の記録 (2010年2~8月)

三月十四日定例会



「森の家下関」九時集合。参加者五十二名。石楠花を五十本植えた。会員の和泉さん御夫妻製作の手彫りの標識も登場した。



四月四日深坂さくらえ

本紙六ページ。

四月十日さくら研修旅行

本紙七ページ

五月十六日総会

本紙二ページ、引き続き

きもみじ谷手入れ作業。

この日は「もみじ谷」

の遊歩道整備に集中して

作業を行った。県からチ

ツパーマシン(木材破砕

機)を借りてきて使用し

てみた。途中で動かなくな

っても、技術者(三輪



木材破砕機と三輪さん



遊歩道の木の除去

さん)が仲間居るので、すぐに修理完了。心強い限り。もみじ谷では遊歩道の真ん中から木が生えていた。「春は桜、秋はもみじ」がさくら友の会の合言葉だ。遊歩道も通れるようになり、この秋が楽しみだ。

七月十一日臨時総会

事務所移転は定款の変

更になるので、総会で承

認されねばならない。

前日から、の激しい雨

で、出席率が悪いのでは

ないかと心配されたが、

三十八名の出席を得て、定

足数を十分上回り、無事

開催され、承認された。

(関連記事一ページ)

ご存知ですか?

指定管理者制度

「深坂自然の森」、「森の家下関」などは下関市の沢山の管理施設の中の一部である。「さくら友の会」は一年中、深坂の森に入つて、ボランティアでさくらの維持管理活動をしているが、それらは指定管理者がすべきことを、一部肩代わりしているように見える。また、現在の対象の管理状況を見てみると、いささか歯がゆい思いをすることも少なくない。そこには予算の問題もあるが、工夫すれば、もつと市民に愛され、利用されるだろうという改善の余地がある。

プロジェクト会議

深坂自然の森をもつと市民に愛されるもの、したいという「さくら友の会」発足の趣旨からしても、この指定管理者への挑戦を検討しなければならぬのは当然である。二〇〇九年一月、このことを念頭に置いて、指定管理者検討プロジェクト会議が発足した。以来合計七回、延べ一〇〇人以上の時間をかけて検討を重ね、七月二十九日の理事会に、これらの施設の指定管理者となるべしとい

う趣旨の答申をした。

準備に入る

それを受けて、理事会は、来春の入札に応札することを決定した。プロジェクト会議はそのまま継続して、準備作業を開始した。現在その事業計画書の作成作業にかかっている。

下関市の思惑

下関市は、管理予算の削減と、より広い市民の利用を期待している。「さくら友の会」としては、市民の目線で、利用者の期待に応えるサービスを提供する一方、深坂自然の森の自然環境を、市民の財産として、守り育てる土台を築いて行きたいと願っている。

大きな責任

管理事業は年間千万単位の管理料を伴う事業であるから、大きな責任が発生する。どんな困難があっても、それを完遂する覚悟と体制を要する。

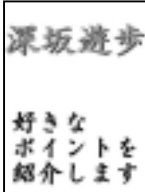


(プロジェクト会議)

友の会は人材は豊富だが、殆ど一線を退いた方たちだ。もう、難しいことには関わりたくないという人も多かるう。しかし、そんな方々も仲間が困難に直面しているのを見れば、手をこまねいて見ていることが出来ぬ人も多いだろう。良い結束を維持することが課題だ。

有償と無償

会の活動の中に、有償



「つり橋」

深坂ダムの上流には、かわいいつり橋がある。規模が小さいので、小さい子ども連れやお年寄りにも好まれる。橋は湖に面すれすれだから、多少揺れても怖いという感じはしない。橋の上に人影を認めると、広い湖面から白鳥がゆつくりと泳いでくる。シャッターチャンスを待っている写真家の姿を見ることが多い。季節によって背景が変わり、また、朝昼晩と光線の具合が変わるので、最高のチャンスというところ、限りが無いだろう。鴨や、錦鯉などもゆつくりと下を流れて行く。湖の中から木が生

の事業に関わる者と、従来の無償のボランティア活動にかかわるものが存在することになり、不公平感が生じる恐れが十分にあり。思いがけなく欲がからみ、今までは、気持ちよくボランティアに参加していたのが、何だか馬鹿らしくなると言うことになる。友の会が思わぬ危機に曝されることになる。これをどう解決していくかが、また知恵の出し所であらう。

え出ているのも面白い。柔らかな光、爽やかな風、風の香り、小鳥の声、木々の緑、広い湖面、水鳥、魚影など、さまざまな自然が、ウィークデイの油や垢にまみれた心を癒してくれる。近くのベンチに腰を下ろし、じつと白鳥を見守るのもよし。二羽の白鳥は、つがいだろうか? 白鳥がいかに幸せそうに見えてくる。

